

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・研究指定校、推進校を経て、職員一丸となって学力向上に向け授業改善に取り組んだものの、各教科において十分な基礎・基本の定着までは至らなかった。現状をしっかりと分析し、学力向上に向けさらに研究を推進していく。 ・スマホの利用時間の長さは全国調査の結果からもうかがえ、家庭学習の充実にも影響を与えていると思われる。「スマホの利用時間2時間以内、睡眠時間7時間以上」についてのアンケート結果は生徒58%、保護者32%と依然低く、スマホ利用に対する生徒の意識改善と家庭との連携強化を図ることで、スマホ利用時間の縮減と望ましい生活習慣の形成を目指す。 ・教師による回答では、業務改善・働き方改革に対する肯定的な回答が87%と昨年を下回った。今後も改善する余地や可能性のある業務を洗い出し、一層の改善を推進する。
------------------	--

2 学校教育目標	確かな学力を身につけ、健康で心豊かで、生きる力をもつ生徒の育成 － 主体性・協働性の発揮 －
----------	---

3 本年度の重点目標	1 人権・同和教育を軸とした生徒指導 2 学習指導の充実 3 進路指導・キャリア教育の充実 4 開かれた学校づくりの推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒の表現力の向上 ○授業の振り返りによる生徒の主体性のさらなる向上	○振り返りで「自分の考えや思いを表現する活動の場が設定されていた」に対し、生徒の肯定的評価85%以上	・各教科で授業の振り返りを実施し、生徒の学習に対する主体性の向上をはたかせる ・各教科で表現活動を実施し、その充実のために指導法を改善していく	A	・振り返りで「自分の考えや思いを表現する活動の場が設定されていた」に対し、肯定的な回答をした生徒は94%であった。引き続き、生徒の実態に応じた取り組みを実施していく。	A	・授業の振り返りでは約93%の生徒が肯定的な評価を行った。生徒の主体性を向上させる実践が各教科で進んでいる。 ・概ね単元ごとに、各教科で表現活動を実施している。次年度へ向けて情報共有し、実践に繋げていく予定である。	A	・生徒の実情に応じ、さまざまな取組み・方法で生徒の学習意欲の向上のために努力した。効果が表れている点もあるが、来年度以降も努力を続けて欲しい。 ・タブレットの操作等についてこれしていない生徒への対応に課題がある。	学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の取り組みについてのアンケートで肯定的な回答の生徒と保護者の割合を90%以上	・職員による全校生徒対象の人権講話の実施 ・道徳の研究授業の実施	A	・学校における道徳教育の取り組みと成果について肯定的な回答をしたのは、生徒が96%、保護者は90%であった。高い評価を今後も維持できる取り組みを行う。	A	・道徳教育の取り組みについて、生徒の肯定的な回答は、96%から97%、保護者の回答は90%から91%と、若干ながら上がっており、少しずつ効果が上がってきていると考えられる。今後は、教科横断的な取り組みを取り入れていけば、さらに道徳的意識向上が期待される。	A	・生徒たちは、思いやりの心や優しさはもっているが、それを態度に出したり、表現したりすることが苦手のようである。来年度からの研究を生かして生徒の指導にあたって欲しい。	人権・同和教育担当 道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケートで、学校の取り組みに肯定的な回答をした生徒・保護者の割合をそれぞれ80%以上	・毎月末に「こころのアンケート」を全生徒を対象に実施する ・生徒指導部会（週1回）と生徒指導協議会（月1回）を通し、全職員で生徒に関する情報共有と対応を検討する	A	・学校のいじめ防止・対応の取り組みについて肯定的な回答をした生徒は94%、保護者は86%であった。学校や職員の取り組みを「見える化」し、生徒のより良い人間関係の構築に努める。	A	・学校のいじめ防止・対応の取り組みについて肯定的な回答をした生徒は93%、保護者は88%であった。発生したトラブルやいじめ事案については職員で連携・協議を行いながら迅速に対応することができた。また、事後の対応についてもこまめに声かけを行いながら解消に向けて取り組みを行った。	A	・人間関係のトラブル、対応の難しさを感じる。 ・昨年度のいじめの案について、その後のことが定期的に報告があったのが良かった。 ・地域でどう心を育てていくか課題である。	生徒指導主事
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒60%以上	・生徒の出番の確保と自浄作用の支援（主体的な生徒会活動の推進） ・自己肯定感を向上させる指導方の研究と実践 ・キャリア教育の充実	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は93%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は67%であった。自分の良さを自認はしているものの、それを伸ばし・発揮し、自己肯定感にまっすぐなける必要がある。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は93%で前回と同じ、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は57%で前回は下回った。学習・文化発表会で、働くことや将来について学習した内容を発表するなどの取り組みを、今後も継続させ、将来の夢や目標を持った生徒を増やしていきたい。	B	・全ての生徒が具体的な目標をもつことは難しいだろう。しかし、今の生徒のような指導が受けられることはうらやましい感がある。 ・「将来の夢をもっている」の肯定的な回答が57%だが、この数字をどのように認識するのかもポイントである。	進路指導主事 総合学習担当
	●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒95%以上	・朝食の効果について、保健だよりや給食時間の放送を通して引き続き啓発を行う ・食育週間等に生徒に対し朝食に関するアンケート等を取り、引き続き大切さを知らせていく	A	・「健康に良い食事をしている」に対し、肯定的な回答をした生徒は90%、朝食を（ほぼ）毎日とって登校すると回答した生徒は94%であった。反面、全く食べない生徒もいる生徒もおり、栄養学の側面からの指導の必要性を感じる。	A	・「健康に良い食事をしている」に対し、肯定的な回答をした生徒は93%で前回と同じ、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は94%であった。また、食事に關して興味・関心が高い生徒も多い。ただ、いつも朝食を食べない生徒も一定数いる。今後も引き続き指導を行っていきたい。	B	・共働き家庭が増え、子どもが朝食をとる時間には保護者が家にいないという家庭もある。また、保護者が朝食をとらないというところも増えてきているのではないだろうか。継続的な指導が必要である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・行事、学級・学年事務、校務分掌事務等の精選	B	・時間外在校等時間の上限を超えた職員は延べ人数で40名（26%）であった。引き続き業務の効率化、啓発に努める。	A	・時間外在校等時間の上限を超えた職員は延べ人数で48名（25%）であった。来年度も業務の効率化を進めていく。	A	・先生方は頑張っている。自己管理（体調）をしっかりしてほしい。 ・管理職が早く帰ることをしないといけない。	教頭
	○協働性を重視した職場の構築	○学年や校務分掌の連携がとれており、グループワークが進んでいると答える職員80%	・担任任せにせず、全職員で学年・学校経営を行う組織づくり ・部活動複数顧問制度の活用	A	・「グループワークが進んでいる」に対し、肯定的に回答した職員は85%であった。各主任のコーディネーター力も高める必要がある。	A	・グループワークが進んでいると肯定的に答えた職員は86%だった。職員の雰囲気もよく、協働的に業務を遂行することができた。	A	・学校行事等で先生方が協力して仕事をしていることが長く伝わった。今後もよい雰囲気の職場を作りたい。	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員、保護者の連携の推進	○特別支援教育に関する教員、保護者、関係機関の連携が適切にとれていると答える教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	A	・特別支援教育に関する連携が適切にとれていると答える教員は95%であった。部会を定期的に開催したことも効果があった。	A	・特別支援教育に関する連携が適切にとれていると答える教員は92%であった。部会やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの職員研修を通して、職員間の共通理解の向上を図った。	A	・今年度から特別支援教育に関する連絡会を定期的に開催するようになり、生徒の情報交換や指導に関する協議の時間が確保できたことは有効であった。	特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○SDGsの理解と推進	・持続可能な開発目標（SDGs）の理解と実践	・ラブアースデーへの参加者数10人以上 ・地域ボランティアへの参加率を昨年度よりも向上させる	・4月オリエンテーションでの紹介（生徒会長） ・ラブアースへの参加募集（生徒会活動）	A	・ラブアースデーの参加は17人であった。生徒の多くがボランティアに対して好意的な姿勢でいることが評価できる。	A	・全校集会でSDGsについてユニセフの講座を受け、興味を持つことができた。また、生徒会を中心にボランティア活動に取り組むことによって地域貢献ができた。	A	・3月に行った地域花植え活動には40名を越す参加があり、生徒会を中心にボランティアに対する意識が高まっている。海が近くにある立地を生かした取り組みで生徒の関心を高めて欲しい。	生徒会担当
○ICT利活用能力とセルフコントロール力の育成	・ICT機器を用いて自らの考えを伝達する能力の向上 ・スマートフォン等の電子機器の利用についてルールやモラルを守ろうとする意識の向上	・「ICT機器を用いて自らの考えをまとめ、伝えることができる」について肯定的な回答をした生徒70%以上 ・「スマホの利用時間2時間以内」である生徒60%以上	・各教科等でタブレット端末を利用したプレゼンテーションおよび相互に評価し合う活動の実施 ・テスト期間中の家庭学習を記録し見直す取組の実施 ・インターネットやSNSの利用等についての学習の実施	B	・「ICT機器を用いて自らの考えをまとめ、伝えることができる」について肯定的な回答をした生徒は85%だったが、「スマホの利用時間2時間以内（ゲームを含む）」と回答した生徒は29%と多かった。4時間以上使用していると回答した生徒が32%もあり、継続的な指導が必要である。	B	・生徒会活動や学級活動において、積極的にタブレットを使用し、自らの考えをまとめたり表現したりする活動も多く取り入れることができた。 ・スマホの使用時間（ゲーム含む）が2時間以内の生徒は21%と低く、逆に4時間以上の生徒が31%もいた。セルフコントロール力の向上に課題が残った。	B	・保護者が日常的にスマホ等を使っているのを子どもが見ているので、子どもだけのコントロールは難しい時代である。 ・ネットトラブルが小中学生に降りてきているので、小学校と連携をとる必要がある。	研究主任 ICT推進

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・スマートフォン等の端末の利用時間が多いのに対し、家庭学習の時間が極端に少ない傾向にある。学習に対する姿勢にも差が見られ、学力が二極化している。希望する進路の実現に向けて学力はもとより、生活習慣の見直しやセルフコントロール力を高める指導が必要である。 ・文部科学省の道徳教育研究指定を受けるにあたり、これまで本校で取り組んできた人権・同和教育との関連を図り、カリキュラムや教材の確立、地域人材の発掘や地域との交流を進めていかなければならない。本年度までの学校教育目標や校内研究をベースとしつつ、新たな実践や研究を行い、生徒の資質向上と職員のスキルアップを図っていく。 ・本校は時間外在校時間等はそれほど多い数字ではないが、できるだけ業務を効率化したり、協働化したりし、個々の負担感を軽減していく必要がある。
--------------------	---